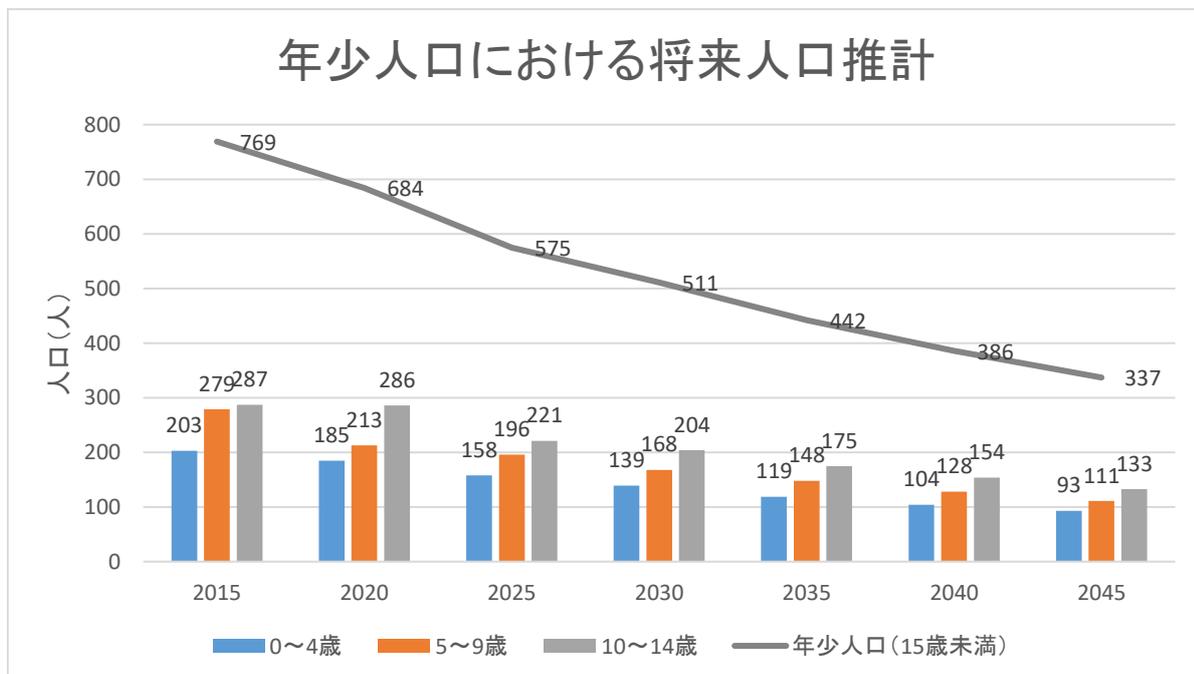


出典: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口

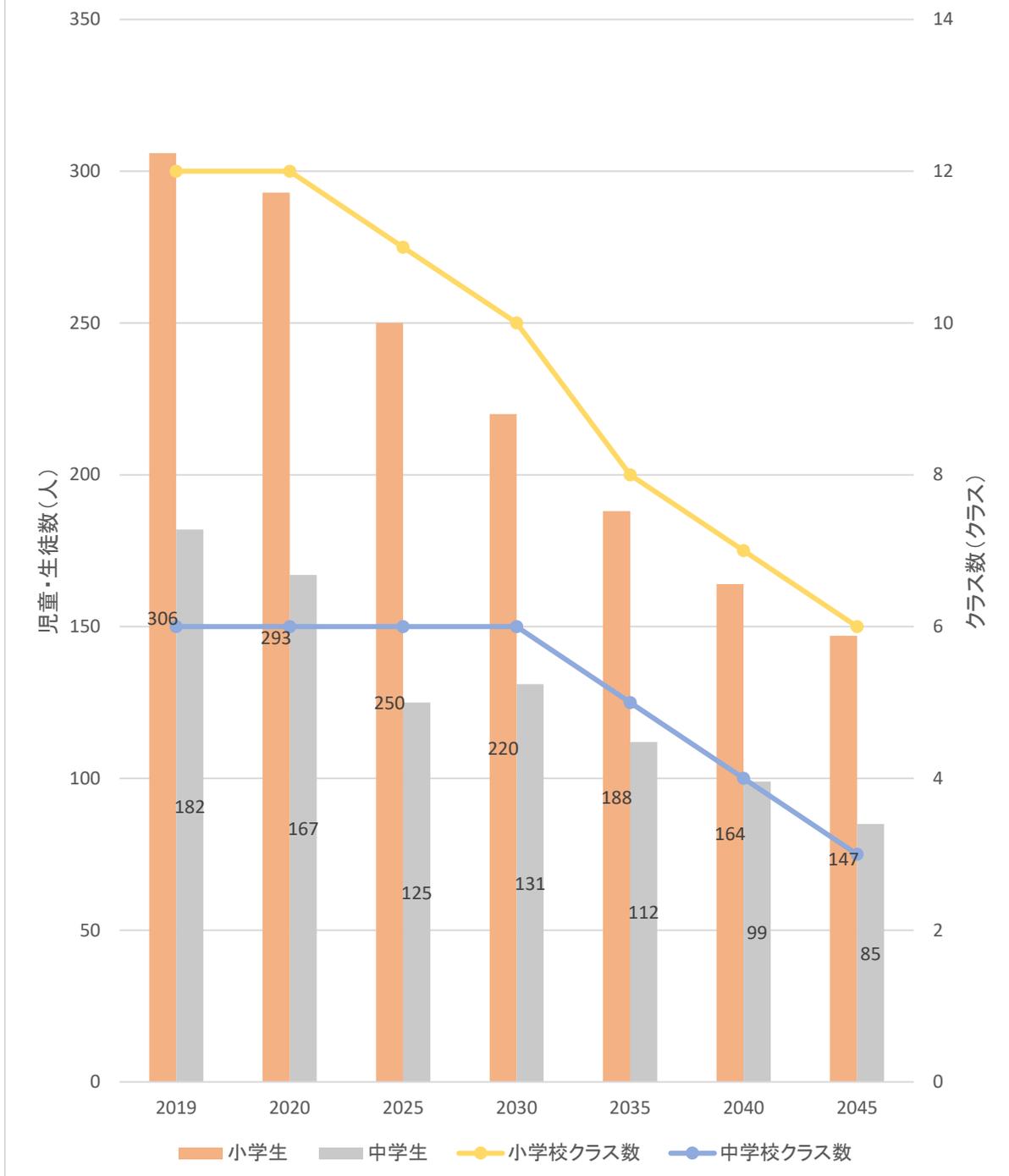
- 2015年(平成27年)国勢調査報告に基づく、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口結果表2「年齢別人口および平成57(2045)年の指数」によると、総人口の年約100人ペースでの減少が続くことにより、どの年齢区分も減少していくが、なかでも年少人口および生産年齢人口の減少率が大きく、2045年にはそれぞれ2015年の半数以下となる将来推計結果となっている。



出典: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口

- 2040年、つまり今後20年後には年少人口が2015年時の半数となる将来推計結果となっており、町内保育園・小学校・中学校に通う園児・児童・生徒数がそれだけ減少する想定となる。

児童・生徒数とクラス数の将来推計



出典: 住民基本台帳に基づく人口、国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口、児童・生徒数及び標準学級数調べからの推計

- 2019年の住民基本台帳に基づく人口および、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口における年少人口の5年毎の増減率で現在の児童・生徒数を割り戻した将来推計結果によると、小学校では2025年から、中学校では2035年からクラス数の減少が始まり、2045年には最少クラス数となることが想定される。
- 上記を踏まえ、学校施設の検討を進めていく際には、現在進めようとしている新たな学校施設を2025年供用開始と見込むのであれば、それから20年後には中学校施設を取り込んだ施設として活用できるよう、増築スペースを見込むなどの配慮をしておくべきである。